

静岡産業大学総合研究所は、2012年の創設以来、静岡県のビジネス社会をはじめいろいろな社会の発展に寄与するため、大学に蓄積してきた情報、知見、アイデア、研究成果、教育力を提供する地域連携活動を行っています。

また、皆様方の日々の活動のお役に立つ、身近な情報を広く提供すべく、随時ニュースレターを発行しております。

静岡産業大学総合研究所
静岡県藤枝市駿河台4-1-1 (静岡産業大学藤枝キャンパス内)
TEL.054-646-5435 FAX.054-645-1230

三島由紀夫作品の豊かな語彙

夏目漱石、川端康成など、静岡県にゆかりのある文学者は数多く存在しますが、静岡をこよなく愛した作家の一人に、2020年、没後50年を迎えた三島由紀夫がいます。下田、静岡、藤枝、浜松などの各市で関連イベントが催され、全国的にも再評価の兆しが見られました。

ノーベル文学賞の候補者でもあった三島由紀夫の主要作品は、世界各国の言語に翻訳され、二度にわたって全集も出版されています。数多くの「作品論的研究」や「伝記的研究」が行われ、その文学的価値は広く認められていますが、三島の使用した言葉そのものについての研究は多くありません。

私はかねてより、多くの人が指摘する「三島由紀夫の語彙の豊かさ」について、一度考察を加えたいと思っていましたが、これまで、日本語の文章における語の分析は、すべて人の手によって、これを行うしかありませんでした。ところが、近年では、コンピューターを使用した日本語の解析技術の発展によって、言葉の計量的な分析が可能となってきました。

そこで、日本語教育の分野で使われている「語彙レベルチェッカー」というシステムを使用して、日本の有名な文学作品の一部分（「述べ語数」約3,250語＝芥川龍之介の『羅生門』全文程度の長さ）を切り取って、重複していない「異なり語」をカウントしてみました。「述べ語数」がほぼ同数の文章の場合は、「異なり語数」が多ければ多いほど、そこに多様な語が使われているということになります。

助詞、助動詞などの付属語も含まれた数字なので、やや粗い解析にはなりますが、結果は、森鷗外『高瀬舟』＝773、芥川龍之介『羅生門』＝796、太宰治『人間失格』＝805、夏目漱石『こころ』＝815、川端康成『伊豆の踊り子』＝869、谷崎潤一郎『細雪』＝893でした。これに対して、三島由紀夫は、『仮面の告白』＝924、『金閣寺』＝957、『天人五衰（豊饒の海）』＝950と、いずれの作品にも他を上回る「異なり語」が使用されていることがわかりました。

常々、「日本で最も語彙が豊かな作家は三島ではないか」と感じていた私は、あらためてそれを確信し、2020年3月、新型コロナ感染拡大の直前にエジプトのカイロ大学で開催された国際シンポジウムで、この結果を発表しました。

次のページへ➡

三島由紀夫というペンネームは、静岡県の三島に由来します。三島の本名は、平岡公威（ひらおか きみたけ）といいます。昭和16年、学習院中等科時代に、国語教師の清水文雄によって文才が認められ、「花ざかりの森」という作品が、清水が編集委員を務めていた雑誌『文藝文化』に掲載されることになりました。その編集会議は、伊豆修善寺の新井旅館で開かれたのですが、その席上、まだ16歳の中学生の本名をそのまま載せることに対する憂慮の声があがり、ペンネームで掲載しようということになりました。そして、清水らが修善寺へ赴く道中、三島駅を経由し、そこで見た富士の雪が非常に美しく、強く印象に残っていたことから、「みしまゆきお」という名前が考えられたそうです。

これを本人に伝えたところ、漢字は「三島由紀雄」を希望したそうですが、「雄」は重すぎるのではないかという清水の助言もあり、「三島由紀夫」に落ち着いたといいます。（三島のペンネームの由来には諸説ありますが、三島の恩師である清水文雄が、上記の内容を文章にして残しており、これが最も有力な説だと考えられています）。

東京で生まれ、東京で育ち、自らの生涯を東京で閉じた三島が、幾度となく、取材や執筆、休息に訪れたのが、ここ静岡でした。自決の三か月前にも、毎年家族と訪れていた下田を再訪し、ターコイズブルーと呼ばれる美しい海を臨むホテルに滞在して最後の夏を過ごしています。

45歳で壮絶な最期を遂げた特異な作家、三島由紀夫に対しては、強いアレルギーをもつ人も多いようです。しかし、美しい日本語とはどのようなものかということ、その膨大な作品群で私たちに示した稀有な作家であることも事実です。

私は約40年、外国人留学生に対する日本語教育を専門にしてきましたが、日本語について知れば知るほど、三島の日本語の豊かさに深い感銘をおぼえるようになりました。今後しばらくは、「三島由紀夫の語彙」を研究テーマの中心に定め、その分析の結果を静岡から世界に発信したいと考えています。

このエッセイは、日本経済新聞2021年9月14日朝刊に掲載された「静岡発私の提言」を加筆修正したものです。

異なり語数

『高瀬舟』	773
『羅生門』	796
『人間失格』	805
『こころ』	815
『伊豆の踊子』	869
『細雪』	893
『仮面の告白』	924
『金閣寺』	957
『天人五衰（豊饒の海）』	950

略歴

上智大学文学部教育学科卒業、早稲田大学大学院教育学研究科国語教育専攻修士課程修了。
聖パウロ学園高校、(独)日本学生支援機構東京日本語教育センター専任教員、静岡産業大学情報学部准教授を経て現職。この間、城西大学、文教大学、インドネシア国立ボゴール農科大学、中国国立東北師範大学、マレーシア国立マラヤ大学、東京外国語大学において日本語教育、日本語教員養成に携わる。専門分野は日本語教育学。



静岡産業大学経営学部教授
日本語教育研究センター長
たにくち まさあき
谷口 正昭

磐田市 静岡産業大学 連携事業

2022年度 社会人リカレント講座

ここからはじまる！
経営のDX

ビジネス活動に必要不可欠なデータ解析手法の基本と活用

本講座では、静岡産業大学の教員が、データ解析の基本的な考え方や経営への活用、留意点について事例を用いて、やさしく解説いたします。

日程	11月18日(金) 申込 11月14日(月)	11月25日(金) 申込 11月21日(月)
	12月2日(金) 申込 11月28日(月)	12月9日(金) 申込 12月5日(月)
	12月16日(金) 申込 12月12日(月)	

時間 各回共通 13:30～15:00
15:10～16:40

会場 静岡産業大学 磐田キャンパス

定員 30名

受講料 参加無料

お申込

●大学ホームページまたは右記QRコードより申し込み or
受講希望講座(複数可)、お名前、住所、連絡先、メールアドレスを
FAX、メール、郵送、または磐田キャンパス窓口へ



お問合せ

静岡産業大学 総合研究所(磐田キャンパス内) 〒438-0043 磐田市大原1572-1
TEL0538-36-8864 FAX0538-36-8800 E-mail sird@ssu.ac.jp

詳細は次ページへ▶

経営のDXに活かすデータサイエンス入門(詳細)

第1回
令和4年
11月18日(金)
13:30～15:00
15:10～16:40
講師
経営学部 准教授
岩本 武範

エビデンスを引き出す
意思決定のためのデータ活用

申込 11月14日(月)

経営の意思決定において、データの活用法や分析技術、正しいエビデンスの集め方は、昨今重要性を増している。本講座では、分析技術よりも経営の意思決定に役立つエビデンスの集め方に着目し一連の方法を紹介する。

講座では複数の経営課題を設定し、その解決に資するストーリーから必要となるデータメニュー、適切な分析方法、エビデンスの集め方に関するフレームワークを学習する。経営者～実務者まで幅広い層の視点で解説する。

第2回
令和4年
11月25日(金)
13:30～15:00
15:10～16:40
講師
経営学部 教授
牧野 好洋



データで見る日本の物価

申込 11月21日(月)

昨今、食パンやガソリンなどの価格が上昇し、物価の高騰(インフレ)が話題です。物価は、様々な財・サービスの価格をひとつに集計した値です。物価統計の見方を学び、データをグラフ化、その動向を考察しましょう。

講座では、最初に、様々な価格をひとつに集計、物価を算出する方法を学びます。次に実際のデータを入力し、様々な価格や物価の動向を考察します。最後に、物価高騰の影響は世帯の属性により異なることを説明します。

第3回
令和4年
12月2日(金)
13:30～15:00
15:10～16:40
講師
経営学部長 教授
佐野 典秀

人工知能基礎講座
ディープラーニングはじめの一步

申込 11月28日(月)

近年の人工知能の基礎のひとつディープラーニングについて、その基礎となっているニューラルネットワークについてから紐解いていき、ディープラーニングとは何かを概観してみましょう。

講座では、人工知能の変遷から紹介し、近年、とくに再び人工知能が注目されるようになった背景にあるディープラーニングについて、簡単なニューラルネットワークを用いて画像認識の例を見ながら、その基礎を学んでいきます。

第4回
令和4年
12月9日(金)
13:30～15:00
15:10～16:40
講師
経営学部 准教授
久保田 貴之



データから探る見えない心

申込 12月5日(月)

心は目に見えません。しかし、心は我々の行動や思考に影響を与えており、これらのデータは心に関する重要な手がかりとなります。この講座では、心理データ分析の演習を通して、データから心を探る方法を紹介いたします。

講座の前半では、条件を変えて測定された心理データの比較から、条件による心への影響を調べる手法を紹介いたします。後半では、測定可能なデータを集約し、直接的には測定できない心の特性を推定する手法を紹介いたします。

第5回
令和4年
12月16日(金)
13:30～15:00
15:10～16:40
講師
静岡産業大学 名誉教授、前学長
鷺崎 早雄



社会におけるDX化と影響

申込 12月12日(月)

デジタル化がもたらす変化の核心は、リモートワークを可能とし、かつAIを含む情報処理システムの支援を得て、仕事を効率化することです。世界がその方向に向けてすでに大きく変化し始めていることを俯瞰しましょう。

最初に、IT革命とビッグデータ革命について、その社会的影響の大きさをマクロに振り返ります。次に、企業100社のDX事例をとりあげ、軸となる考え方を考察します。最後に、今後の「リモート経済」の衝撃について説明します。